



第 16 回交流会「みつけよう春の森いろいろ」

2019 年 4 月 29 日(日)

参加者 16 名

変な葉っぱ お久しぶりイタチ 素晴らしい写真の交流会

毎年 4 月 29 日は森で過ごす。こんな事を決めている方々が三崎日駅に参集!ところが、今年はそんなにスムーズに始まらなかった。京急が人身事故で一部が不通。やっと電車が到着。ゾロゾロと改札口から人が。混雑した電車から解放された趣。受付もまだ一組が未到着と言う。N さんに森入り口までの案内をお願いして、油壺行きのバスに乗車

久しぶりにここに来た人は三崎高校の跡地の変わりようにビックリ! 感慨にふける余裕がなくどんどん、昔の水道広場へ。ここも綺麗に竹が整理されており何かが建つ予定なのだろうか長方形に砂利が撒かれている。

挨拶で始まり 今日が目玉が話される。「変な葉っぱを見つけてみよう。」と。*ナラメリンゴフシの写真のある絵本を見せる。中にはハチやハエの幼虫が入っているらしい。案内するスタッフは下見の結果、沢山変な葉っぱが見られる場所までは、いつも通りみんなで素敵な春を見つけて歩こうと決っていた。

参加の皆さんの中には昆虫、鳥、植物が得意な方がいて下さり、賑やかに森の新緑や垂れ下がる藤の花房を愛でながら歩く。ウグイスも元気に谷渡り。



(2019 年 4 月 2 日撮影)



前に赤い葉っぱを落としていたクスノキが西側斜面に玉切りにされて山積みになっている。その下にはコナラの木の玉切りが。幹の表皮の違いがよく分かる。

いつもフデリンドウのある辺りには姿を見つけれない。落の葉が真ん中広場を占めている。いつものフキバツタを見つけれない。食痕も見つけれない。寒い日が続いたせいでしょうか。

「目をキン、キラにして素敵な植物を見つけましょう。」の掛け声に参加者の目がまん丸に近づき目の前に張り付く。あった! どれなの? 見つけた可憐な咲き始めたギンランにス

マホやカメラが近づく。人目につきやすい所に咲いているが素通りしていく人の方が多い気がする。27 日の下見から 2 日経っているが採られてはいないようだ。みんな、マナーがよいのだ。

スタッフの T さんが男性の付き添いの仕事で私たちの側を通り過ぎる。シュンランを前に見た所には姿はなかった。良く陽の当たるところにエビネが二株植わっている。歩く人の目を楽しませることでしょう。

* 虫えいの名称「ナラメリンゴフシ」は日本原色虫えい図鑑(湯川淳一・栢田 長)を参照しました。

山辺の道では幾種類かの変な葉っぱが見られるので参加者に紙とペンを渡して探して描いて貰うようお願いする。コナラやミズキに揺りかごがついている。最初に紹介したナラメリンゴフシが見つかりペンを走らせる参加者たち。

柳テラスで休憩。昼の場所まで少しあるので小腹を満たして貰う。狐アザミ、カキドオシ、フジ、ガマ、半夏生やミゾソバなどお馴染みの草がのびのびと湿原を占めている。

エノキのテラス付近はハマダイコンの花が圧倒的なボリュームで回りを取り囲む。小さな人工池にはキンポウゲの仲間が満開。その中に動かない大きめのトンボを見つけた。翅が一枚取れている。後日、ギンヤンマではないかとメールがあった。擬木道の上で縄張り争いをしているのはシオヤトンボ(でよいのでしょうか?)で人の足音に飛びあがったり、止まったり。一目6匹。全体で何匹いるのか頼もしい。



今日はここで、戻ったのだが、帰りの木道の階段の少し手前の右側で茶色の塊が動く。何かなと思いつつ前に進むと木道の下を通つたらしく左側から飛んで走る動物が西に消えた。「イ・タ・チ！」本当に久しぶりの再会だ。心配していたのよ。心の中で呼びかける。

いつの間にかスタッフのTさんが仕事を終えて皆と合流している。参加者一同、嬉しい思いが顔に出ている。トンボとおいかっこをやりながら、出口近い階段を上り終えて、午後の写真とトークの催しの準備があるので、筆者はNさんの車でHさんと一足先にスポーツ公園の会場へ。



ナラメリンゴフシ(虫:ナラメリンゴタマバチ)



いつの間にかスタッフのTさんが仕事を終えて皆と合流している。参加者一同、嬉しい思いが顔に出ている。

トンボとおいかっこをやりながら、出口近い階段を上り終えて、午後の写真とトークの催しの準備があるので、筆者はNさんの車でHさんと一足先にスポーツ公園の会場へ。

スポーツ公園で描いた変な葉っぱの正体を突き止めようと考えていたのだが、案じていたとおり昼食時間のように取れない時間になってしまい、断念。この紙上をお借りして少しでもわかったことをお知らせすることになります。



フジハフクレフシ(虫:フジタマモグリバエ?)



コナラに作った揺りかご(虫:アシナガオトシブミ?)



ウラナミアカシジミの終齢幼虫

山辺の道で見つけたコナラについていた蝶の幼虫らしきものについて、今日調べてみたらウラナミアカシジミの終齢幼虫でした。あの場でそうおっしゃっていたのを聞き逃したので、自分なりに調べてみました。

加藤さんの写真とトークを楽しむ会「三浦半島の自然」



加藤さんは今は自由に写真を撮ることができる日常で、今回は1年間撮りためた三浦半島の四季の生き物と宮古島、北海道の生き物の写真を見せて頂いた。最近はいさい昆虫にはまっているという加藤さんは私たちが目にしたことのない小さい生き物の写真をきちんとした名前つきで紹介してくれました。その数120あまり。その写真が撮れる場所や時刻などの秘密も惜しげなく教えて貰い、小網代以外の自然に疎い私たちは大いに参考にさせて頂きました。

4時半の閉館ギリギリまで使用させて頂き、管理人さんたちにはご迷惑をお掛けしました。後日、毎年親子で参加しているKさんから「春爛漫の小網代の森、最高のごほうびでした。すぐに引き返す覚悟で参加させていただきました。みな様のあたたかい励ましもあり、おかげさまで歩くことができました。本人も「来年も行く?」とのこと。ありがとうございました。抜粋掲載」の葉書をいただきました。会員の皆様、来年も同じ日で開催の予定です。ご参加期待しております。



(記：宮本美織 写真：浪本晴美)

●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

小網代の森の中、花から虫から、鳥から、あれ何に? これ何?

答えが返って来て、楽しかったです。

午後は加藤さんの写真展、スライドで色々な所の写真を見られて楽しかったです。

次回はどんな写真が見れるかな?

Y.S

珍しい虫の寝袋、落とさない落とし文。美しい山ツツジ、藤の花そして花を訪ねる様々な蝶、トンボ……沢山の出会いがあり、幸せ一杯!!

加藤さんの一年の自然の映像。初めて目にする鳥、昆虫 etc.

時の経つのも忘れて楽しめて本当に素晴らしい思い出が出来ました。

良い会に参加させて頂けたこと心から御礼申し上げます。

H.H

春は花が多くて、歩くのはとても楽しい。Hさんのように何でも植物を知っている人と歩くと、とくに楽しいです。

動物は何がいたか、そこには目が向かず、それは少し残念です。

T.M

久々のウォーキング、ちょうど暑くもなく寒くもなく、色々花もみられ、楽しめた。山つつじについたおとしぶみ、きょうみ深く、ナラメリンゴフシや銀らんもすみれもガビチョウの大きな声に迎えられ、スライドショーもたいへん勉強になった。近くの場合、いってみようと思った。ありがとうございました。

K.H

美しい森でした。花と若葉とちょうや虫や風、加藤さんの写真のカメムシの数の多さとバリエーションにびっくり！
とってもたのしい観察会でした。ありがとうございました。

K.S

小網代の森の中、花から虫から、鳥から、あれ何に？ これ何？ 答えが返って来て、楽しかったです。

午後は加藤さんの写真展、スライドで色々な所の写真を見られて楽しかったです。次回はどんな写真が見れるかな？

Y.S

森の新しいトイレの建物の後の山が青い。フジの花がいっぱい
でいいにおいがしそうできれいだったのが印象に残りました。
森のカエルの歌も良かった。

N.T

- ・めずらしく
- ・くもりだったけど、とてもステキな緑の森でした
- ・ヤマツツジがいつもの年より赤みが濃くて、クロアゲハ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、モンキアゲハと、みごとに勢揃いしていて幸せな出会いだった
- ・加藤さんのスライドショー、ワクワク拝見!!
身近な地でいろんな生き物がいることを教えて頂き、是非行ってみたいと思いました。

A.M

フキバッタ 今年はまだか 露の上

へんな葉を 探す私も へんな顔

励まされ 緑の森の 完歩かな

一年を 詰めた写真を 凝視する

M.M

オトシブミやコナラメリンゴフシ、おもしろいものがあるものですね。絵があまりにも下手で何だかさっぱり.....

ムラサキケマンの実を飛ばしたりエビネや小さいギンランを見たり、植物も楽しく見ました。最後にヤマガラを見てラッキー。

加藤さんの写真も鳥がたくさん出てきて、うれしかったです。

A.K

貴重な写真をありがとうございました。ありがとうございました！

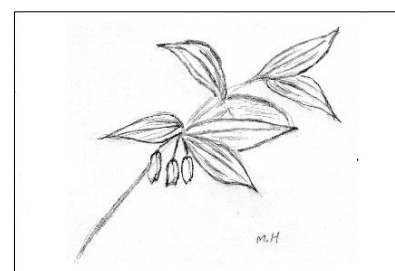
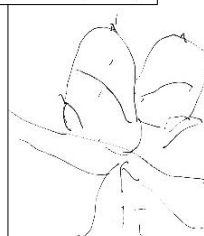
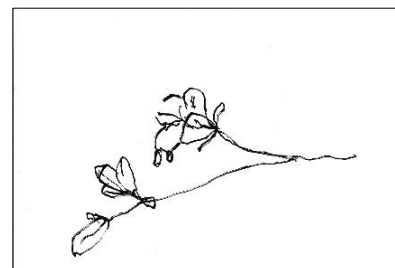
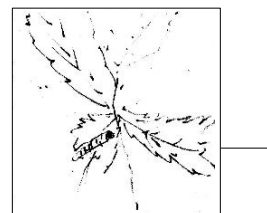
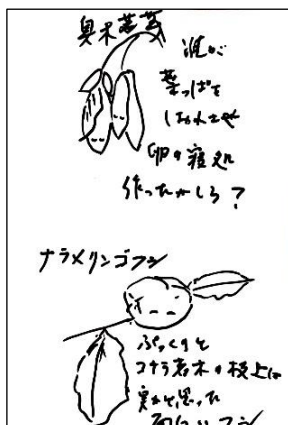
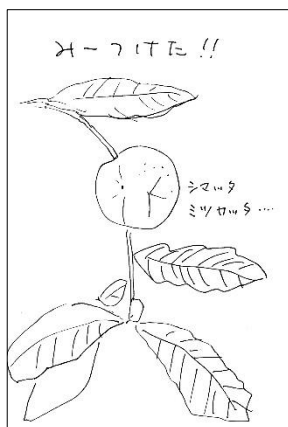
S.T

京急が満員、子連れが多い
Kさんのスライドが最高でした。

S

ミゾソバ、ハンゲショウの草原からガマの湿地へボードウォークを走り抜けたcongari焦げ茶色の動物。
タイワンリスと比べたら太短に見える尻尾が可愛い。 イタチ見ちゃった バ(o'▽'o)ノワァーイ♪

M.H



三浦半島の植物

今回ご紹介するのは、2011年6月15日の作品「ケイワタバコ」です。岩に生えて葉がタバコに似ているところからその名がついた「イワタバコ（イワジシャ）」の亜種ですが、三浦半島に自生するものは全部ケイワタバコだそうです。

そして令和の年に空前の大ブームとなっている万葉集に度々登場する山萵苣^{やまちしゅ}はイワタバコのことであるとする説もあるようです。

ケイワタバコ(毛岩煙草) 2011年6月15日



画 野内眞理子

随想 代網小サロン

随想

運慶展で

須田漢一

ぎよろり、と

眼が飛び出すような、玉眼ぎょくがんの像は、こちらを見据えてせまってくる。心の内が見透される恐ろしさを感じるが、一面、茶化するように笑っているともとれる。

比べて、木と一体に細く刻まれた目は、心のうちを見せない。優しい微笑のなかに、何かを掴もうとする感じを受ける。

いま、ここに展示された幾体かの像は、一体一体がそれぞれの役割を表している。

宇宙を照らす太陽で、万物の慈母と説かれる大日如来。一切の人間の病氣を治すという薬師如来。憤怒ふんぬの形相で災害を除き、財産をふやす功德があるとされる不動明王。そして阿弥陀如来、毘沙門天、梵天ぼんてん、十二神将像など、その目や唇はもとより、体を巻いている布や、耳にかかる髪の毛の流れにもリズムがある。座像の、組んだ両足をつつむ衣ひだの襷は急流のようにうねっている。その足は指先まで彫り刻まれている。こうした像をコーディネートした運慶

は、これまで静かだった仏像に、動感をあたえた、といわれる。

天才仏師・運慶には湛慶、康運、康弁、康勝、運賀、運助、の六人の子がいて、お互いに助け合い、チームを組んで工房を支えた。中でも三男の康弁は筋肉の表現に、リアルさを追求した。立像は特に尻とふくらはぎに、如実さを求めた。また、それと分る持物、飾りなどの緻密なのは、運慶の意図をくんだハーツ（寄せ木）があったから、多くの像が力強く造られた、といわれる。

それらは衆生しゆじやう（社会といってもよい）の苦悩や迷いや、願いを受け入れ、励ましたり、叱ったり、救ったりを目に見える形として彫刻された。もちろんその願い、祈りは生活様式の変遷によつて種々雑多であつたろうが、人々の考え、望む、全てが像に込められていた。

かつて、歴史上では、そうした像を、燃やし、傷つけた者があつた。その行為は、自らを壊すようなものだ。人生での生きた証しや、何の意味をもたない、人間としての失格者だ。

仏像に対して、人はさまざまなおもいを持つ

だろう。その像が有名、無名にかかわらない、たとえば、人目につかない藪の中や、落ち葉、土砂に埋もれたものであつても、その機能は、あらゆる人のなかにうごめいている煩惱を打ち払ってくれる具象として、そこにある。

鰯の頭も信心から、などと笑つてはいけない。おちゃらかしてはだめだ。自分の品性が疑われる。心の照れ隠しを「無信心」などと逃げることは、無知をされけだしているにすぎない。

多くの仏像について、生半可な理解しかない心で、寺の境内を歩く。

阿字ヶ池が静まっている。赤い反橋そりばしの下をマガモとアオサギが水を分けていた。葉を落としたイチヨウとケヤキの巨木は、長い歴史をそのからだに秘めていることだろう。

自然物と、人によつて造られた仏像とのバランスは、どの時代にも必要ではないか。

おだやかな日射しの中で、そんなことを思っていた。

サロン小網代 三浦半島のイノシシ

令和元年5月6日 祖父川精治

神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター発行のPR紙「三浦半島だより」平成30年12月号葉山町上山口で、イノシシが捕獲された様子が写真付で紹介されている。

5年前(2013)の春頃より、葉山町の各所でイノシシの目撃情報が報告され、とくに農作物への被害が発生しているという。本来生息していないはずの三浦半島に、イノシシが生息しているとは驚きです。特に森戸川上流の二子山周辺では数多く確認され、また町内の公園などに踏み込んだ足跡が多く見られる。人々の生活圏へ侵入しないように、県では「イノシシの管理計画」を策定し、葉山町では生息個体数の減少対策として、捕獲のためにハコワナ、カコイワナ等を設置していくと話している。最近の情報では、捕獲総数は葉山町では約90頭。逗子市約9頭といわれる。

横須賀市の情報によると、市内の田浦大作町、田浦泉町、山中町などの林道内でイノシシが出没している。数年前から田畑や菜園でも被害が出ている。市ではワナを設置して捕獲を目指しているという。昨年末の12月までに、約8頭を捕獲した。

三浦市の担当者は市内では未だ生息は確認されてないが、隣接の横須賀市でイノシシの情報が多数あるので警戒を続けていますと話している。

丹沢山地に近い秦野市戸川公園周辺でも、よく泥浴びした跡や足跡が見られるとの情報がある。



イノシシは、黒褐色の剛毛で覆われ警戒心嗅覚が強く、臆病で日頃は人前には姿を現さない。しかし、驚くと物凄い勢いで突進し、1メートル位はジャンプする。鼻で地面を掘り返しミミズやサワガニ等のエサを探す力持ち、泥浴びが大好きである。イノシシの子供たちを、縦縞がある長円形の瓜に似ているところから親しくウリボウと呼んでいる。

山道を歩く時は鈴など音の出るものを持参する。もし、出合っても大声を出して威嚇せず冷静な対応をしてその場をそっと離れる。昔、西丹沢登山で山北町玄倉の車道を歩行中に、イノシシの親子連れと出会い怖かった思いをしている。

朝日新聞では2019年2月9日(土)紙上で、「イノシシとどうつきあうか」という特集をしている。

イノシシの評判がよくない。農作物を食い荒らしたり、人を襲ったり。人とのあつれきは増すばかりと報じている。近年、分布域を広げ生息数も急増している。山と里山との中間地の衰退といった、私たち人間社会の変化が大きな要因である。古来、身近な野生動物のイノシシとどう付き合っていくのか、人の知恵が試されている。

農作物を守ろうとする人たちと、山地へ押し込められていたイノシシが、山麓や低山地との境界線が消失。放置された里山や農作放棄地が恰好の棲家になっていった。

環境省によると、イノシシは1990年代に入って急速に数が増えてきた。イノシシは多産で、1年間に4~5頭は出産、減らすのは容易ではない。分布域は拡大して、空白地域とされてきた東北、北陸地方でも生息が確認されている。推定生息個体数は10年間で倍増、1999年度は50万頭、最近では捕獲が増えても個体数は100万頭といわれる。分布域は1978年から2014年までの36年間に、1.7倍に広がっていったといわれる。

被害を受けているのは主に山地や山麓の農家が多い、イノシシとの戦いは人口減少、高齢化との戦いでもあるといわれている。

イノシシはもともと身近な野生動物で、縄文弥生時代の遺跡からは小さなイノシシの土製のひな形模型や残骨が確認されてきている。昔し、山の生き物に対する殺生禁止令が言い渡された。人々は、イノシシのことを「ヤマクジラ」といい換えて捕獲し食料にしてきたという。

小網代を詩う

いつまでも 小網代は不思議

中井 由実

虫なのか、実なのか、
つぼみ？ はたまた何かの糞？

目を閉じれば

森の中なら何だって見える
谷に伸びる木道の両側の草・花・木々
さわさわと揺れる新芽を

イレギュラーに動かす小さい命
透き通り流れの下の足跡だって

なのに 交流会のスナップの中に
見たことのない緑色の塊が写っていた

つついてみれば分かるのか

匂いを嗅げば分かるのか

眺めていれば分かるのか

欠席した罰ゲームのようなその写真に

尽きることはない森の不思議が写っていた



春よこい

今年の春は不安定だった
きれいなお天気の日も稀
風が強かったり 寒かったり
冷たい雨が降ったり

中井 由実

森の生き物たちも困っただろう

いつ芽を出せばいいのか

いつ穴から抜け出せばいいのか

いつ卵を産めばいいのか

いつ花開けばいいのか

人間たちも困っていた

いつ小網代に行けばいいのか

あの怪でフデリンドウに会うためには

光の丘水辺公園遠足 「春の妖精ニリンソウを訪ねて」

2019年4月14日（日） 参加者6名



YRP野比駅に 10:00 集合、スタッフの車に乗便して光の丘水辺公園へ向かいます。公園の入り口付近ではヒメリンゴの可愛らしい花が私たちをお出迎え。

たっぷりの水と水鳥、さまざまな植物を楽しみながら奥へと進みます。ほとんどの植物には名札がついているので、悩むことなく勉強できます。そうそう、ムラサキハナナと覚えていた花にショカツサイ(諸葛菜)、オオアラセイトウという別名があることも教えてもらいました。アブラナ科なので花が咲く前の茎や葉はお浸し、胡麻和え、炒め物、サラダといろいろな料理で食用になりますが、あまり美味しくはないという噂です。

ずんずんと進んで通常は立ち入り禁止のエリアへ。光の丘水辺公園友の会の方たちがいらして、植物や動物の写真を見ながら説明していただいたり、園内の案内をお願いできたりしています。ここから先は友の会会長の別府さんに案内をお願いして、さらに奥へと進みます。別府さんは小網代で鳥見交流会の講師としてもおなじみのあの別府さんです。いつもいつもお世話になります、今日もよろしくお願いします。

浅い池に沢山のオタマジャクシと水生生物。あれもいる、これもいる、あれは何？ これは何？ とはしゃいでいるうちに、目の前に現れるニリンソウの群落！ 切れ込みの深い斑入りの葉から立ち上がる細い茎2本、そしてその先に2輪の白い花。ひらひらして見える雄しべがアクセサリー。妖精という表現がぴったりの愛らしい姿です。

ニリンソウの白と緑のカーペットにアクセントを添えるのが、3種類のイノデ。ここにはアスカイノデ、ミウライノデ、イノデという3種類のイノデがあります。来るたびに見分け方を教わって、その都度覚えた気になっているのですが、いざとなるとなかなか思うようにはいきません。ちなみに小網代の森のイノデは全部アスカイノデだそうです。

見分けといえば、ヘビイチゴとヤブヘビイチゴの違いも昨年教えていただいたのですが、今日改めて見てみるとガクの形も、大きさの違いもはっきりと認識することはできませんでした……情けないです。

右の写真はオオバウマノスズクサの花。とても不思議な雰囲気の花が葉の陰に隠れるようにひっそりと咲いています。秋にはスターフルーツみたいな形の、小さい実がなります。でもうっかり食べないでくださいね、毒があるかもなのです。

(記:橋 美千代 写真:別府史朗)



こあじろの森くらぶ NEWS

スタッフの活動

- 2019.03.24(日) 通信 No.15 印刷・発送 スタッフ会議(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2019.04.14(日) 光の丘水辺公園遠足「春の妖精ニリンソウを訪ねて」
- 2019.04.27(土) 第16回交流会下見
- 2019.04.29(月祝) 第16回交流会「みつけよう、春の森いろいろ」
交流会終了後加藤利彦さんの写真とトークを楽しむ会「三浦半島の自然」
- 2019.05.10(金) 第17回交流会「ホテルを見に行こう！ 2019」案内ハガキ発送
- 2019.05.21(火) 多摩川干潟遠足「河口干潟の生きもの」荒天のため中止、6月4日に延期

●●●● 会員更新のお願い ●●●●

こあじろの森くらぶとしての活動をスタートしてまるまる4年、小網代の森が開発の危機に瀕していた時代から闘ってきた会員、小網代ファンを募る活動に応じた会員、保全された森の環境に改めて魅せられた会員、世代を越えて手を携え、活動してまいりました。森を守ることから解放されて、今小網代の森には国内外から多くの人々が訪れ、日々観光地化していくように見えます。5年目を迎えてこあじろの森くらぶは、未来の森のために、自然を楽しみつつ静かに見守り続けていかなくてはならないと、思いを新たにしています。会費の払込票を同封させていただきました。2019年度(2019年7月～2020年6月)の会員更新をぜひ、よろしくお願ひいたします。

年 会 費 1000円(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 記号番号 00290-6-137203

加入者名 こあじろの森くらぶ

●●●● 第17回交流会のお知らせ ●●●●

「ホタルを見にいこう! 2019」

2019年6月2日(日) 16:00 三崎口駅前集合

*荒天の場合は中止

谷を下り、えのきテラスで休憩後、ホタルを観察しながら谷を上って帰る予定です。懐中電灯、軽食のご用意を。保険はありませんので自己責任でご参加をお願いします。

森入口看板に掲示された開場時間延長のお知らせより

観察時の注意

- ・足元が暗く見にくいので、十分ご注意ください。
- ・懐中電灯を持参し、足元のみを照らしてください。
- ・18時以降は右側通行をお願いします。
- ・18時以降の飲食は禁止です。
- ・ホタルには触れないでください。



来場時の注意

- ・延長時間帯に入場できる入口は、引橋入口及び宮ノ前峠入口です。北尾根口からは入場できません。
- ・駐車場はないので公共交通機関をご利用ください。
- ・地域住民や他来場者に迷惑になる行為は行わないでください。
- ・ペットは一緒に入場できません。

●●●● 多摩川干潟遠足のお知らせ ●●●●

河口干潟の生きもの

開催日:2019年6月4日(火) *5月21日が雨天中止のため予備日の開催です

お待ち合わせ:10:00 京急小島新田駅 14:00頃散会

持ち物:長靴必携、お弁当、飲み物

対象:「こあじろの森くらぶ」会員とご家族、ご友人

*保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

*小さなお子様は着替えをご用意ください

こあじろの森くらぶ通信 No.16

2019年5月26日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地:〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費:1000円(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203